

湘南フィルハーモニー合唱団 第26回演奏会

DVOŘÁK

STABAT MATER

ドヴォルザーク スターバト・マーテル Op.58

MENDELSSOHN AVE MARIA

メンデルスゾーン アヴェ・マリア Op.23-2

指揮 松村 努

ソプラノ 朴 瑛実 アルト 谷地 畝晶子

テノール 鏡 貴之 バス 久保田真澄

管弦楽 グロリア室内オーケストラ

合唱 湘南フィルハーモニー合唱団

2017年10月21日(土) 開場 15:50 開演 16:30

すみだトリフォニーホール 大ホール

■チケット発売開始 7月15日より S席 ¥3,500 A席 ¥3,000 B席 ¥2,000

■チケット取り扱い  pia.jp/t
0570-02-9999

■お問合せ 045-984-3371 鈴木 ホームページ <http://sho-phill.com/>

後援 神奈川県合唱連盟 / JCDA 日本合唱指揮者協会

画像はブラハ・カレル橋のキリストの磔刑像 Wikipedia から使用しました

■湘南フィルハーモニー合唱団のご紹介

湘南フィルハーモニー合唱団は1985年茅ヶ崎市で発足、現在団員は約150名。オーケストラと共演する合唱曲の演奏を目的として活動しています。1989年にお迎えした松村努先生の優れた指導力と高い音楽性によって徐々に力を付け、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス等の宗教曲の名曲を演奏して参りました。

2010年の第20回の記念演奏会では初めての世俗曲、カンタータ「カルミナ・ブラーナ」を取り上げ、それまでと異なる貴重な経験も致しました。

2011年、大震災による練習場確保の困難な状況を体験した後のヴェルディ「レクイエム」は被災した方々への心からの祈りを込めた演奏となり、2012年のオラトリオ「パウロ」はすみだトリフォニーホールで初めての東京公演。2014年のみなとみらいホールの大雪の中の演奏会、更には2016年1月、還暦をお迎えの松村先生を祝う「ダイヤモンドコンサート」では参加13団体合同による「カルミナ・ブラーナ」の演奏。また同年9月のベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」など思い出深いコンサートの数々も団員の心に刻まれております。

一方、カトリック茅ヶ崎教会のご協力を頂き、1991年から毎年12月に行われてきたクリスマス・チャリティ・コンサートは、聖堂という祈りの場をお借りし、神父様のお話を伺いながらの温かい雰囲気での演奏会として続けられており、今年、第27回目を迎えます。

■演奏曲目について

ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」作品58

アントニン・ドヴォルザーク(1841~1904)は、ハプスブルク家に200年余りも支配され、漸く民族意識が目覚めたころのチェコで肉屋の息子として生まれました。少年の頃から音楽の才能を認められていた彼は、長じて、オルガンやヴィオラ奏者、ピアノ教師として生計を立てつつ、作曲を続けていました。

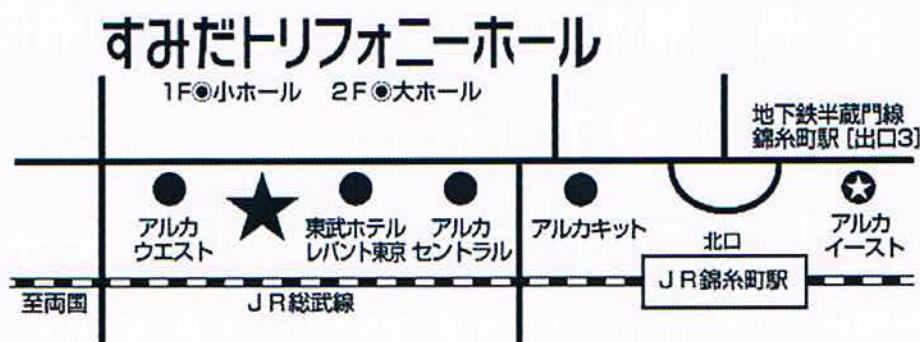
1873年、32歳の時にはある程度の成功をおさめ、間もなく教え子のアンナと結婚。1875年にはオーストリア文化省に認められ奨学金を得、生活が安定しつつあった矢先、長女を亡くすという悲しみの中で心を捉えたのが「スターバト・マーテル」の詩でした。作曲を進めるうちにも1877年になって次女と長男を相次いで亡くすという不幸に見舞われたドヴォルザークの心中は推し量るのも憚られる気がします。

この公教会祈祷書中のスターバト・マーテルの韻文は、十字架にかけられたイエスの下で悲しむ聖母マリアへの祈りであり、この詩には古くからたくさんの曲がつけられペルゴレージやロッシーニなどの作品がしばしば演奏されますが、このドヴォルザークの作品も特に有名です。

詩は10の部分に分けて作曲され1曲目の激しい悲しみから4曲目のバスソロと合唱に表れる慰めの旋律を経て次第に祈りへと高められてゆきます。

メンデルスゾーン「アヴェ・マリア」作品23の2

フェリックス・メンデルスゾーン(1809~1847)21歳の時、ローマ滞在中に作られた「三つの聖歌 作品23」の第2曲。聖母賛歌「Ave Maria」の詩にオルガンと8人のソリスト、8声部の合唱で歌われる美しい小品。今回は管弦楽とテノールソロおよび8声部の合唱(一部16声)で演奏されます。



お願い

※未就学児の入場はお断りしております。